

靈操の目的

靈操とは…

靈操とは、良心の究明、黙想、觀想、口禱と念禱のあらゆる方法を意味する。靈操は、又後に述べるように、他の靈的修業も意味する。散歩したり歩いたり走ったりするのを体操と言うが、同じように、靈魂を準備し整えるあらゆる方法を靈操というのである。(靈操 1)

靈操の目的

その目的は、まず、乱れたあらゆる愛着を棄てる事であり、その後、靈魂のたすかりのために、自分の生活を整える事について神のみ旨を探し、確かめる事である。(靈操 1)

生きる目的

人間が造られたのは、主なる神を賛美し、敬い、仕えるためであり、こうする事によって、自分の靈魂を救うためである。又、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を達成する上で、人間に助けとなるためである。(靈操 23)

目的に至る道

私が造られた目的、すなわち、主なる神への賛美と自分の靈魂の救いのために造られたという事だけを見ていなければならない。従って、選ぶものは何であれ、私が創造された目的の助けとなるものでなければならない。又、目的のための手段にその目的を従わせ

適応させるのではなく、手段をこそ目的に従属させるべきである。
(霊操 169)

心の自由

従って人間は、そのものが自分の目的に助けとなる限り、それを使用すべきであり、妨げとなる限り、それから離れるべきである。であるから、私達の自由意志に任せられ、禁じられていないものであれば、全ての被造物に対して偏らない心を育てなければならない。
(霊操 23)

祈るときに…

⁵ 「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。⁶ だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。⁷ また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思いついでいる。⁸ 彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。

(マタイ 6, 5-8)